

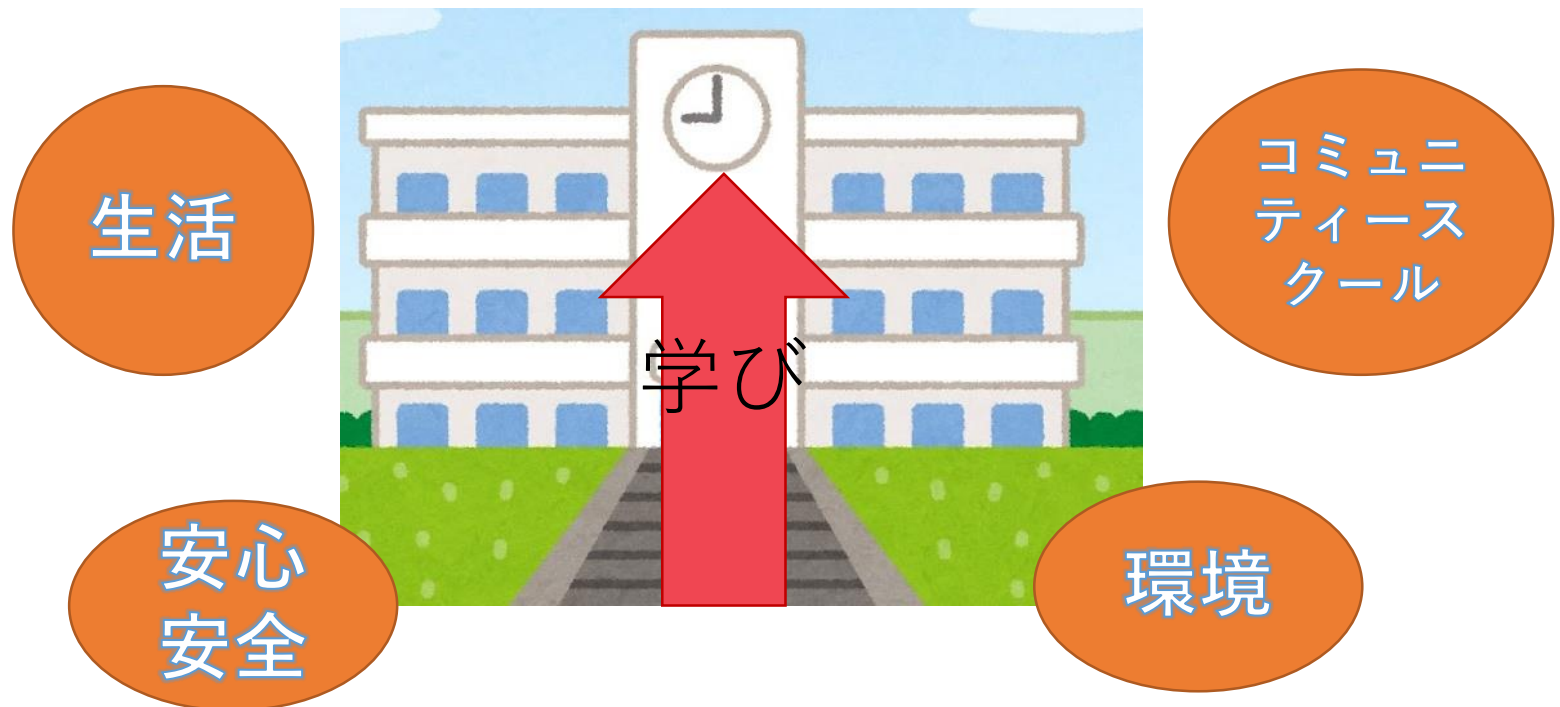
所管事務調査のテーマ

教育環境の さらなる充実について

すべての子ども達の可能性を引き出すためにGIGAスクール構想よる1人1台端末、校内ネットワークの拡充が進むなか、学校施設の在り方を含め未来志向で考える必要がある。本市の一人ひとりの子どもたちにとって個別最適な学びと協働的な学びとの一体化のための教育環境のさらなる充実について調査研究する。

新しい時代の学びを実現する 教育環境のさらなる充実の必要性

子どもたちにとって個別最適な学びと協働的な学びとの一体化



これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿

《学び》

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現

⇒1人1台端末環境等に対応した多様な学習を展開できる教室環境の整備

⇒個別学習や少人数学習など柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備



02 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

多様な学習活動を展開できる学習空間



教室空間と隣接する多目的スペースとの連続性・一体性を確保し多様な学習活動へ柔軟に対応していく姿

07 【学び】柔軟で創造的な学習空間を実現する

読書・学習・情報のセンターとなる学校図書館の整備



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせて読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・コモンズ」としていく姿

《生活》

【新しい時代の学び舎の土台として
着実に整備を推進】

新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

⇒居場所となる温かみのあるリビング空間(小教室・コーナー、室内への木材利用)

⇒空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化

1.3 【生活】健やかな学習・生活空間を実現する

快適で温かみのあるリビング空間



木材を活用して温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

《共創》

【地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現】

⇒コミュニティ・スクールとして連携・協働していく活動・交流拠点として「共創空間」を創出

⇒地域の実情等に応じた他の公共施設等との複合化・共用化等

1.5 【共創】ともに創造する共創空間を実現する

学校と地域が支え合い協働していくための共創空間



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動ができる共創空間としていく姿

《安全》【子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現】

⇒老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保

⇒避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、災害対策等の防災機能を強化

18 【安全】安全・安心な教育環境を実現する

避難所としての防災機能の強化



地域の避難所として、バリアフリー化、水害対策など防災機能を一層強化するとともに、居住性等を確保していく姿

《環境》【脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現】

⇒屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を推進

⇒環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進

20【環境】持続可能な教育環境を実現する

木材利用の促進



地域材の活用により、快速で健やかな環境を生み出し、環境負荷の低減に加え地域の活性化や文化の継承にもつなげていく姿

学校施設の老朽化の現状等を踏まえ、教育環境向上と老朽化対策を一体的に図る長寿命化改修等を積極的に推進していくことをはじめとした具体的な方策を提言したい

(1) 長寿命化改修を通じた新しい時代の学びを実現できるように

(2) 市長部局と協働した中長期的視点からの計画的・効率的な整備の推進

(3) 多様な整備手法等の活用と施設整備と維持管理の着実な推進

(4) 学校関係者等の参画による豊かな学びの環境整備の推進

<所管事務調査のテーマ>

「障がい者福祉
の現状と
支援について」



◆ テーマ設定の理由

「地域共生社会を目指す」

健常者

障がいの有る無しに関わらず

障がい者

支え合う
社会

テーマの進捗状況

地域共生社会の実現のために

①心のバリアフリー推進

◆障がい者への偏見がない社会

②障がい者の防災対策

◆個別避難計画

◆福祉避難所

活動実績について

◇障がい者団体への広聴会（意見交換会）開催

R3. 10. 25 「手をつなぐ育成会かすが」

R3. 11. 12 「春日市身体障がい者福祉協会」

R3. 12. 20 「五筑会」

◇施設訪問（管内視察）

R3. 12. 15 「社会福祉法人はるかぜ福祉会」

見えてきた課題の分類

1. 「地域とのつながり」

2. 「就労」

3. 「住民意識」

4. 「家族意識」

広聴会での意見

1. 「地域のつながり」

- ① 特別支援学校の整備が進む半面、ますます地域とのつながりが希薄になってきているのではないかと？
- ② 施設に入ることによって、地域との接点が無くなってきているのではないかと？
- ③ 精神障がい者と地域との交わりが難しい。

2. 就労

受け入れ側（企業側）の

障がい者に対する理解不足があ

る様に見受けられる。

3. 住民意識

①地域住民の障がい者への理解不足があるのではないか？

②子供が発達障がい者で周りとのギャップがあるようだ。

③コミュニケーションが取れない。

④地域行事への参加が難しく感じる。

4. 家族意識

- ①障がい者にとって、地域の交わりが難しく感じる。
- ②家族は常に、周囲に迷惑をかけないようにしたいと思っている。
- ③家族が近所の人に、当事者のことを話すことが出来ない。

<今後の活動>

課題の解決に向け

- 先進地への行政視察
- 市民との意見交換



政策提言



地域建設委員会

委員長
副委員長

岩淵 穰
白水 祥太郎

委員 金堂 清之
野口 明美

中原 智昭
吉居 恭子



所管事務調査テーマ

『人と地域がつながり、
良好な住環境の中で安心
して暮らせるまちづくり
について』

- 調査項目
- ①自治会活動支援事業
 - ②コミュニティバス事業
 - ③西鉄春日原駅周辺整備事業

☆地域生活部（ソフト面）1項目 都市整備部（ハード面）2項目

調査項目の取組み状況と行動計画①

自治会活動支援事業

- ・協働のまちづくりの重要なパートナー
 - ・今後期待される役割が多い
- 調査の進捗
- ・SWOT分析による自治会の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を整理 → 4つの側面の強化および克服について手法を協議
- 今後の行動計画
- ・自治会長会との意見交換
 - ・地域づくり課からの聞き取りと意見交換
 - ・先進地への行政視察

調査項目の取組み状況と行動計画②

コミュニティバス事業

- ・ 市民生活における重要な交通インフラ
 - ・ 現在の運行形態が時代に合っているか
- 調査の進捗
 - ・ コミュニティバスの「強み」「弱み」を抽出
 - ・ 乗り換え無しの直通路線の増設の検討
 - 今後の行動計画
 - ・ 先進地への行政視察
 - ・ 自治会へのニーズ調査
 - ・ 西鉄路線バスとの競合回避

調査項目の取組み状況と行動計画③

西鉄春日原駅周辺整備事業

- ・春日市の玄関口として50年100年先を決める事業
- ・あるべき整備とは？

○ 調査の進捗

- ・道路管理課から最新の情報を入手
- ・駅周辺機能のソフト面ハード面の課題を抽出

○ 今後の行動計画

- ・西鉄春日原駅周辺まちづくり会議メンバーとの意見交換
- ・先進地への行政視察

『市民に負託された委員会の使命と役割を果たします！』